

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 36 号:2015 年 4 月－6 月期】

- * 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2015 年第 1 四半期のウズベキスタンの輸出額は 35 億ドルで、2014 年比 13.9%の増加であった

年初より、輸出に新規参入した企業が 146 社、新規に輸出品目に加えられた製品・産品が 102 品目を数えたと、4 月 24 日の閣議で伝えられた。2014 年に輸出伸び率の低下が見られたため、ウズベキスタン政府は今年、輸出額の増大と輸出品目の多様化に特に注目している。閣議の結果に基づき、関係省庁の幹部らには、生産高を増やし、商品品目と輸出先を多様化するためにどのような資源が利用できるかを明らかにし、それらを動員する作業を引き続き行うよう要請が為された。2015 年第 1 四半期の貿易高は全体として 68 億ドルとなり、2014 年比 5.5%の増加であった。輸入は 33 億ドル、昨年比 2.0%の減少であった。

IMF が 2015 年のウズベキスタンの GDP 成長率予測をやや下方修正

2014 年 10 月に公表された予測では、IMF の専門家らはウズベキスタンの GDP 成長率をおよそ 6.5%と予想していた。4 月 14 日に発表された IMF のレポート「世界経済見通し (World Economic Outlook)」最新号では予測が 6.2%に下方修正されている。2016 年の GDP 成長率予測は 6.5%である。一方、ウズベキスタン政府は、2014 年の成長率が 8.1%であったのに対して 2015 年の成長率を 8%と予測している。

IMF はまた、今年のウズベキスタンの消費者物価上昇率予測を 11.2%から 9.5%に下方修正した。2016 年の予測は 9.8%である。IMF の試算によれば、今年と来年のウズベキスタンの経常収支黒字は GDP の 0.2%になる（前回の予測では 2015 年に 0.5%であった）。

IMF の予測では中央アジアおよびカフカスの全地域、さらに CIS 諸国全体で経済成長率が低下する見通しである。これは、石油、金属および鉱物の輸出価格の低下およびロシアの景気不振によるものである。

投資・金融セクター

ウズベキスタンは 2015～2019 年期中に 846 件の生産近代化・設備更新・技術更新プロジェクトを実施する計画であり、その総額は 408 億ドルに及ぶ

ウズベキスタンは、石油ガス分野において、185 億ドルを投じて各種プロジェクトを実施する。54 件のプロジェクトの実施を計画しており、これによってガス 85 億 m³、石油 7 万 1,000 t、ガスコンデンセート 16 万 1,000 t、ポリエチレン 75 万 t、ポリプロピレン 50 万 t、ポリスチロール 10 万 t その他の製品を生産する設備能力を新規に創出する。

また、土木・公共サービスインフラおよび交通インフラ施設の建設・整備に関する 141 のプロジェクトを実施し、その総額は 98 億ドルに達する。さらに、総額 50 億ドル超に及ぶ 602 件の生産現地化プロジェクトを実施し、1,200 を超える新製品の生産体制を整える計画である。

ナヴォイ鉱山精錬コンビナート (NGMK) とアルマリク鉱山製錬コンビナート (AGMK) は、41 件の鉱山精錬部門近代化・設備更新・技術更新プロジェクトを実施する計画であり、その費用は約 15 億ドルとなる。このうち NGMK は費用が 9 億 8450 万ドルに及ぶ 27 件のプロジェクトを、AGMK は費用がおよそ 5 億ドルに及ぶ 14 件のプロジェクトをそれぞれ実施する計画である。

2015 年、国営株式会社ウズヒムプロムは、総費用 21 億ドルに及ぶ 10 件のプロジェクトに着手する。とりわけ、今年プログラムの枠内でウズベキスタンの大手化学企業である公開型株式会社ナヴォイアゾトにおいて、硝酸設備の改造、アンモニア・カルバミド生産設備およびポリ塩化ビニル (PVC) 生産用化学プラントの新規建設に着手する予定であり、これらの総費用は 17 億 6,000 万ドルとなる。

2015 年投資プログラムの枠内で、既に 53 件の新しい投資プロジェクトが着手されており、その総費用は 48 億ドルを超える。これらのプロジェクトに必要な資金は、企業の自己資金、銀行融資およびウズベキスタン復興開発基金による融資によって調達される。また、ウズベキスタンの政府と企業は、中期投資プログラムの実施に際して外国パートナーを誘致しようと活動を続けている。

ウズベキスタンと世界銀行は、「新パートナーシップ戦略」の枠内で 2020 年までに 57 億ドルの各種プロジェクトを実施する

現在実施されている合弁プロジェクトだけをとっても、世界銀行からの借入金は 16 億ドルに及び、そのうちのほぼ 40% はエネルギー分野およびエネルギー効率改善に向けられている。新パートナーシップ戦略の枠内で今後予定されている 57 億ドルのうち約 30 億ドルがさらにエネルギー分野に向けられることになる。

タシケントで 5 月末、ドイツの銀行大手 Landesbank Baden-Wuerttemberg の支店が開設された

Landesbank Baden-Wuerttemberg はドイツの大手 10 行の一角を占め、世界の銀行トップ 50 行にランクされている。

二国間関係

5 月末、カリモフ大統領が韓国を訪問し、総額 77 億ドルの各種協力協定が締結された

韓国訪問中、貿易・経済協力、投資協力および金融・技術協力その他の分野において 60 件の二国間文書が調印された。

投資協力分野では 34 の協定が調印され、この中には石油化学・化学分野の 5 つのプロジェクト、自動車工業分野の 9 つのプロジェクト、電気事業分野の 5 つのプロジェクト、製薬分野の 7 つのプロジェクトがそれぞれ含まれている。例えば、国営持株会社ウズベクネフチェガスと GS Engineering & Construction Co (GS 建設) は、天然ガスからオレフィンを製造する工場の新規建設に関する覚書に調印した。このプロジェクトの費用は 45 億ドルと見積もられている。GS 建設はプロジェクト費用の 50% を調達するために関心を持つほかの投資家等とコンソーシアムを組み、残りの費用はウズベクネフチェガスが引き受ける。

この訪問の結果、大韓航空がタシケント空港の近代化に参画する予定であることが正式に表明された。計画では、向こう 2 年の間に新国際旅客ターミナルの建設工事に着手することになっている。このプロジェクトの費用は 3 億 1,200 万ドルと見積もられている。この資金のうちの大部分(約 3 億ドル)は外国からの投資と融資によって賄われる。計画によると、新ターミナルは 1 時間当たり約 1,500 人の旅客に対応することができる。

ウズベキスタンにおける各種の鉱工業近代化・多様化およびインフラ整備プログラムの枠内で優先プロジェクトの資金を調達するために韓国輸出入銀行の低利融資約 30 億ドルを呼び込む 7 つの協定が調印された。現在、韓国輸出入銀行の投資金融分野におけるプロジェクト・ポートフォリオの中でウズベキスタンの割合はすでに最大であり、20 億ドルを上回る。

ウズベキスタン代表団の訪問中には、サムスンとウズベキスタン各社の話し合いも持たれ、ウズベキスタンへの家電製品生産ノウハウ・工程設計の提供に関する合意が達成された。この文脈の中でサムスンの代表らは、ウズベキスタンでは最新の家電製品の製造基地を創出し、生産した製品を地域市場に輸出することができると指摘した。具体例を挙げると、ウズベキスタンの Artel 社とサムスンの間の液晶モニター合弁生産計画がすでに明らかになっている。製品は、Artel 社の工場構内においてサムスン・ブランドで生産され、「メイドインウズベキスタン」の表示が付されることになっている。

韓国国際協力団（KOICA）との 2015～2017 年協力プログラムでは、5,800 万ドルの無償資金協力を得て 11 のプロジェクトを実施することになっている。この中には、国際ターミナルの新規建設を含むタシケント市空港近代化事業の FS レポート作成、医療従事者養成センター創設、医療設備保守サービス、専門技術分野毎の職業訓練センター運営その他のプロジェクトが含まれる。

また、ウズベキスタンから韓国への綿花、非鉄金属、自動車用電線、化学肥料、青果物、その他の商品に関して数多くの輸出供給契約が締結された。

ウズベキスタンでは現在、韓国側投資家が参加する企業が 412 社活動しており、そのうち 68 社では韓国資本が 100%を占める。そのほか、ウズベキスタンには 79 の韓国社が駐在事務所を置いている。

エネルギー・セクター

ウズベクネフチェガスが、向こう 4 年間にエネルギー消費を最適化するため 1 億ドル余りの費用を投じて 11 のプロジェクトを実施することを計画

試算によれば、石油エネルギー分野の各施設でこれらのプロジェクトが実現された場合、およそ 1 億 kW/h の電力、10 万 Gcal の熱エネルギーを節約し、新たに約 400 万 kW の電力を発電して自社用に使うことができる。とりわけ、ヤンギ・カラテパ、トゥルトサリ、シルケントの各鉱床、シュルタン昇圧コンプレッサー・ステーションではミニ発電所を設置し、随伴ガス約 590 万 m³を活用することによって 1,800 万 kW/h の電力の発電が可能になる。また、株式会社ウズベクネフチェガスドブィチャの各施設に光起電性パネル（ソーラーパネル）を設置して電力を供給することによりおよそ 7,300kW/h の電力を節約することができる。

ルクオイルが 2018 年頃までにウズベキスタンにおけるガス生産量を 160 億 m³に引き上げる計画

この指標は、現在ガス処理工場を建設中の大型鉱床カンディムの開発によって達成が可能である。現在、ルクオイルは年間 40 億 m³を超えるガスを生産している。

ウズベキスタンが 2017 年にアラル海のウズベキスタン側水域で炭化水素鉱床の補充探鉱、設備建設および開発に着手することを計画

同計画については、「2015～2019 年生産構造改革・近代化・多様化支援対策プログラム」に述べられている。試算では、事業費用は 3 億ドルであり、2017～2031 年の期間に投じられると見込まれている。正確な費用は事業の FS レポートが作成された後に明らかになる。事業の実施に当たるのはウズベクネフチェガス、ルクオイルおよび CNPC で構成される国際コンソーシアムである。この新しい「西アラル」炭化水素鉱床は、2011 年に

行われた探鉱作業の結果発見され、天然ガスの埋蔵量は 110 億 m³と予想されている。そのほか、6つの有望な地質構造があることが明らかにされておりうち4つには登録証明書が交付され深層ボーリングの準備ができています。

輸送セクター

ウズアフトサノアトは 2015 年、自動車工業分野における生産近代化・設備更新・技術更新に関する 15 のプロジェクトの実施に着手する予定であり、その総費用は 3 億 8,150 万ドルとなる

投資資金は、国内銀行からの融資 2 億 4,530 万ドルと傘下企業の自己資金 1 億 3,590 万ドルを原資にして調達する。

その中でも、合弁会社 GM Uzbekistan は 2015～2016 年に 1 億 420 万ドルを投じて T250 車台をベースにしたモデル車の量産ラインを整える。生産能力は年間 7 万 3,600 万台。ウズアフトサノアトはまた、5,380 万ドルを投資して、既存の生産ラインを改造し、新モデルの自動車部品を生産する。

ソウルで開かれたウズベキスタン・韓国ビジネスフォーラムで 5 月 26 日、GM Korea 社のセルジオ・ロチャ社長は、同社が近い将来ウズベキスタンで、新モデルのグローバル車 2 車種を生産する体制を整える計画であること、さらに、GM Powertrain 社をベースにして従来より出力の大きな自動車エンジンを生産する計画であることを発表した。また、(同氏によれば)ウズベキスタンの自動車産業界の 100 社を上回る企業が General Motors 社のグローバル供給ネットワークに組み込まれることになるであろう。

現在、ウズベキスタンの自動車製造業への投資額は約 20 億ドルとなっている。自動車産業界の企業を統合するウズアフトサノアトには 20 余りの企業が傘下に加わっている。その中で最も大きい企業は GM Uzbekistan (乗用車) とサマルカンド自動車工場 (バスとトラック) である。

その他のセクター

ウズベキスタンの家電製品製造 Artel 社は、2015 年に自社の小型家電製品をロシアに輸出する意向である

Artel 社の製品ラインアップには現在、スチームアイロン、扇風機、電子レンジ、ミート・チョッパー、電気湯沸し、ミキサー、ブレンダー、ジューサー、スチームクッカー (蒸し器)、コーヒーマーカー、トースター、ヘアドライヤー、ストレート・ヘアアイロン、カールアイロンといったあらゆる種類のキッチン用、家事用、美容用家電製品が含まれる。

最近モスクワで開催された家電製品展示会 Home Appliances. Design & Technologies 2015 でこのラインアップの製品がはじめて展示された。Artel 社は今年、生産された製品の 3 割を輸出し、3 年以内にこの比率を 6 割に引き上げることを計画している。

中国側がウズベキスタン・中国間の観光交流拡大を提唱

特に、スン・リゼ在ウズベキスタン中国大使は、研究実践会議「シルクロード上の都市ブハラを如何にして世界観光の中心のひとつにするか」で、中国側は中国人観光客の間でブハラの人気を高めるために支援する用意があると表明した。同大使によれば、中国は昨年一年間に世界の観光市場に 9,820 万人の自国民を送り出したが、今年はこの数が 1 億 1,400 万人に到達すると予想されている。同氏はまた、各種の観光行事を催し、シルクロードの人気を高めるために西安、ウルムチ、蘭州その他の都市と活力のある直接の協力体制を築くことが可能であると述べた。